

令和6年度 北区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和6年2月22日（木）午後1時30分から午後3時5分まで
会場	北地区コミュニティセンター2階 大ホール
出席者	<p>北区自治協議会委員：21名（欠席9名）</p> <p>事務局：4名（学校支援課指導主事、北区教育支援センター所長 北区教育支援センター指導主事2名）</p> <p>北区役所関係者：14名（区民生活課長ほか）</p> <p>傍聴者：1名</p>
議事	<p>1 説明 新潟市の中学生のための地域運動活動・文化活動について</p> <p>2 質疑応答</p> <p>3 閉会</p>
<p>司会 (前田会長)</p> <p>学校支援課 指導主事</p>	<p>説明をお願いします。</p> <p>皆さんこんにちは。新潟市教育委員会学校支援課の高見潤と申します。本日は、貴重なお時間を頂きまして、ありがとうございます。</p> <p>これまでの国や市の経緯ですとか方針について説明させていただきたいと思います。はじめに動画をご覧ください。</p> <p>それでは、説明を加えながらお話をさせていただきたいと思えます。お手元の資料には、中学生のための地域運動活動・文化活動となっているかと思いますが、国に倣いまして、中学生のための地域クラブ活動という方向で文言を統一して進めます。</p> <p>これまで学校では部活動という形で、学校に所属している生徒が先生から週5日程度、活動に取り組んできたわけです。放課後の時間帯や休日の時間帯を使って、子どもたちが活動に取り組んできました。その活動の幅もさまざま、運動系や文化系があります。部活動は、教育課程外ということになってはいますが、心や体の成長というところを目指して行ってきたものです。近年、これは中学生に限った話ではないのですが、人口減少から部員数の減少というところにも、つながってきており、今年の中学校の大会でも、野球やサッカー等では自分たちの学校だけではチームが組めないという学校がこれだけの数あり、ほかの学校と一緒にチームを組むというような状況がありました。そして、この子どもの数は、年々減っていくということが、明らかになっています。15歳人口で考えますと、現在新潟市全体で6,000人いるのが、69パーセントの減、そして区によっては約半減するというようなところが統計上も見えてきているところであり、15年後、初めて用意する、準備するというのではなく、今の部活動を新たな形に変えていく方向を今、国がうたっているところが現状であります。また、担当される先生の数も減るというような</p>

状況が今後、出てくることとなります。

これまで中学校の先生がそれぞれ配置された学校で、そこにある部活動について指導を行ってまいりました。学校の先生が指導するため、子どもたちにとっても、保護者の方にとっても、非常に安心な活動となっていた。そして、お休みの日も大会であったり、練習試合であったりというところで部活動にかかわってきていたわけです。ところが先生たちの実態はどうかと考えてみますと、競技経験がないという方が約半数いることも、実は事実としてあります。先生たちは、例えば、柔道部の顧問になる場合で、柔道経験や柔道の指導経験もないときは勉強して、指導に当たるということが多くありました。

そういった教員の働き方改革という部分もあるのですが、文部科学省、そしてスポーツ庁、文化庁のほうから、中学生のスポーツや文化活動、芸術活動を支える新しい仕組みを作るということが、ガイドラインとして示されてきました。学校だけではなく、地域の大人たちで力を合わせて子どもを育てていきたいと思いますというところが国の方針の大きな柱であります。

部活動の地域移行のイメージは、これまで行ってきた部活動というものではなくて、スポーツ、文化活動の新しい仕組みを作っていくという方向です。中学生が、学校施設などの会場、場所を中心とし、そこにいる地域の指導者の方、または専門的な指導のできる方から、やりたい種目を選んで、活動に参加していく。こういった方向を国の方針に倣って、新潟市でも作っていこうというところが、地域クラブ活動を作っていく大きな柱となっています。

国が示す令和 8 年 4 月、ここを目途としまして、まず休日の放課後部活動の活動は行わない。そして、平日の学校の活動はおよそ 5 時くらいまでなら可能。つまり学校教育活動の一つとして部活動になるのか、または放課後活動、レク活動、そういった学校教育活動の位置づけで行っていくことは可能であるという方向で、今、準備を進めてきているところです。

この後、令和 8 年度に向けて、令和 6 年度、7 年度と少しずつそういった地域クラブ活動が増えていくということを今、目指しています。子どもたちの活動の場所としては、やはり中学校の校舎、まずそこが一つ考えられるかと思っています。平日の夕方 5 時から 7 時、そして休日の時間帯、ここを中学生の専門的に使える時間枠、ジュニア専用枠として活用していけるように、準備を進めています。また、指導者も、地域の方であったり、また専門家の方であったり、もちろん学校の先生も学校の教育現場、教師という立場を離れて、地域の一員という形でスポーツ、文化活動の指導に当たっていくということが想定されます。一人で団体を立ち上げる、指導に当たるというケース

もあろうかと思いますが、何人かの複数で団体を立ち上げたり、専門の協会や連盟の方から入っていただくというケースも考えられます。その際の参加者ですが、中学生が参加することになります。ただ、学校の部活動ではありませんので、同じ学校の生徒とは限りません。小学生や高校生、大人と一緒にというそういったサークル的な活動に参加していくことも想定されます。実際に現在、いろいろな学校から集まってきて、テストケースで活動している地域クラブ活動の団体もあります。その活動の中身も今までの部活動とは、少し変わってくるのかなと思います。週に一日というところもあるでしょうし、多ければ5日というところもあると思います。また、一つのものに取り組むということもあれば、子どもたちがやりたいことを選んで、さまざまなことに挑戦していく。多様な活動に触れられるということも、この地域クラブ活動の今後の大事な部分になってくるのかなと思っています。

先ほども触れましたが、地域の指導者から専門的な指導を受けられる機会が増えてくるのではないかなと。そして、地域の人や地域の中学生、同じ世代の人たちと一緒に活動する機会も増えてくる。活動の日数や時間帯も変わる。場所も変わる。そうすると費用というところも少し出てくるのかなというところを、考えているところです。

こういったところをふまえて、活動や過ごし方を子どもたち自身が主体的に選んで参加していくというところを市としても目指していきたいと考えています。

今、各団体から、すでにくっつかお声が上がってきています。子どもたちの活動の場を提供したい、協力できることがあればというところで声をかけてもらっています。後ろの図にあるように、子どもたちは今、iPadを持っていますので、自分がしたい活動を区で選んだり、または活動内容で選んだり、活動方針を見てうまくなりたいたか、楽しみたいといったものに合わせて活動を選んでいけるようにしたいと考えています。そして、令和8年に向けて各区で体験会を開催していきたいと考えています。土曜日や日曜日、例えば大きな体育館ですとか、ホールですとか、そういったところで、紹介コーナーを作ってもらったり、活動内容について教えてもらったりするような会を計画していきたいと考えています。

今後、部活動、地域クラブ活動については、大きな変革点となると考えています。これまでは左側にあるような図に当てはまる部分が大きかったと思うのですが、先ほど言ったような地域クラブ活動を進めていくにあたり、もちろん学校や活動、種目、地域によって、その進み具合はさまざまになってくるかとは思いますが、一つずつ進められるところを進めていくという方向で、考えています。新潟市の目指

す姿として、子ども中心に考えていきたいと思っています。中学生がスポーツや文化、芸術に関する社会教育の中で、自分らしさを発揮し、学び育つという部分を検討していきたいと考えているところです。

それでは、今、見ていただきました動画の補足というところで、いくつか説明させていただきたいと思います。生徒自身のやりたいという思いを実現させる方向で、考えているというところになります。人口減少から子どもたちの数が少なくなっている。学校の部活動という枠だけでは、どうしても進まなくなっている部分があるというところでございます。そちら〇〇中学校の場合と出ておりますが、男子はこの軟式野球、卓球のどちらかを選ぶしかない。女子は卓球かバレーボールからしか選ぶことができないというような、学校の規模に応じた中で活動を選んでいくのではなくて、新潟市内にあるさまざまな活動の中から自分がやってみたいこと。今まで部活動になかったような活動を選んでやっていきたい。そういうケースも出てくるのではないかなというふうに考えています。

そこで国が示す休日の部活動の地域移行というところを新潟市で考えた場合、いくつかの課題が出てくることも明らかになってきたわけです。顧問と指導者のダブルスタンダードになるケースも想定されます。また休日の活動がどこでどのように活動されるのか、情報もなければ子どもたちも選びようがありません。また、地域の活動、今の部活動を地域の方が見てくださるケースも考えられますが、何年後かには、その生徒数が少なくなれば、部活動としての活動も立ちゆかなくなる。やはり今の状態のまま、休日に移しただけでは難しくなっていくのではないかと、いうところが今、課題として挙げられてきたわけです。新潟市における大きな部活動の改革推進期間に突入したというところを私たちも実感してきました。

そこで国もこれは例示というか、指し示しているわけですが、休日だけでなく、平日も視野に入れた地域クラブ活動への移行。地域の実情に応じた持続可能な環境の中で進めてくというところが、国のガイドラインに出ておりますし、それに沿って新潟市も進めていこうというところで、準備を進めています。それに合わせて、平日の教職員の勤務時間の管理というところも必要であろうというところを考えているところです。

先ほどから申し述べさせていただいておりますとおり、令和 8 年が一つ大きな目標になる年と考えています。つまりこの 4 月に中学校に入学する子どもたちが 3 年生になるときが大きな過渡期になります。これから入学してくる子たちにきちんと情報が行き渡るように、中学校でも入学説明会等々で、この地域クラブ活動について説明をしてい

るところです。

すでに新潟市としても、いくつかの団体でパターン、テストケースを進めてきているところです。国の委託事業を受けて行っているところですが、この近くですと新潟北サッカーコミュニティということで、南浜中学校のサッカー部を中心とした取組みが行われているところです。新潟市内 27 の団体でテストケース、実践検証を行ってきているところですが、その中で見えてきているのは、やはり実施主体の指導者という部分です。今まで、種目にたけた顧問がついているケースもあったのですが、このようにそれぞれの活動に専門家の方が指導に当たる。外部指導者の方が専門的に入ってくると。そういった指導を受けられるというメリットが、まず一つここにあるのかなと思っています。

さまざまなケースがあるというところでは、運営形態のほうが挙げられるかと思います。外部指導者の方が団体を組織するケース、市内の中学生を一手に対象としまして、市の陸上競技場に通ってこられる子だったら、どこからでもどうぞというような団体もあります。また、団体として保護者会と共同運営しているところ、一般社団法人が自分たちで地域のサッカーの指導、運営もしますよというケースもあります。このように多様な実施形態の中で、子どもたちの活動環境を作っていけるのではないかというところが、これまでのテストケースで見えてきている部分です。

令和 4 年度の活動に参加した子どもたちや関係者のアンケートの結果です。他校の生徒と一緒に活動できるというメリットを挙げている子どもが大勢います。中には、レクリエーション的な活動をしたいと課題を挙げてくれた生徒さんもいました。そういったところは、活動を選ぶときに、分かるようにしておく必要があるというところが分かってきました。また、保護者の方からも、子どもの上達が目に見えるとか、または他校とのかかわりがあっていい。指導者の方に対して感謝の気持ちを持てるようになってきたというような回答を頂いております。直接、指導に当たっている地域の指導者の方からも、子どもの成長に立ち会えてうれしいというような声も聞かれました。または指導者の方からは、反面、けがへの対応の不安や、集金額をどのように設定するかについても、検討事案だという声を聞いております。

さらに、このアンケートで、子どもたちからも、保護者の方からも、さまざまな理由で満足している、この取組みに引き続き参加させたいというような声が集まってきたところでした。これらを受けまして、先ほども少し触れましたが、将来的には平日の部活動もというように、国のほうも言っていた部分を、新潟市では令和 8 年度から、平日の 16 時 45 分以降、それと休日は行わない。そして地域クラブ活

動を充実できる余暇を残しておくというような考え方にひとつ立っているところです。そして、地域クラブ活動が、生徒が運営団体や実施主体を自分たちで選べる。そういった環境を作っていく。そこを大事に考え、整備を進めているところです。イメージでとらえるとこのような形になります。

現在、学校における部活動が、子どもたちの大半を占めています。それ以外にも、すでにクラブチームに通っているとか、民間のクラブに行っている子も大勢いるわけですが、令和8年4月、ここを目途として、それぞれの文化活動であったり、競技団体が主催する活動であったりというところの団体に子どもたちが選んで入っていけるというところを考えています。もちろん学校も、何もしないということではありません。すでに学校の部活動を保護者が運営する。または地域の方が運営するという形で、いわゆるスライドするような形の団体づくりを学校のほうも、できるところを進めているところです。

先ほど、少し触れましたが、今年中学生、小学生にアンケートを取らせていただきました。今後、地域クラブ活動ということになっていったときに、皆さん、どんなことをしたいですかと問うたものです。こちらから選択肢を出したのものもあるのですが、実は選択肢にないものを多く選んでいる子どもたちもおりまして、バドミントンが人気になっているようなのです。そのほかバスケットボール、陸上競技というところで、これは新潟市内全体で出していますので、かなり大きな数になっていますが、実は区ごとに差はあり、区によってはサッカー熱が非常に高かったり、ほかの区では卓球熱が非常に高かったりします。今後、そういった競技団体にそれぞれの各区での人気状況なども持ちながら、指導者の依頼や、または団体立ち上げの依頼というところに入って行く予定で、考えているところです。

また、アンケートでは、どのように取り組みたいですかという質問もあわせて行ったところです。やはり始まっていくと勝ちたいとか、全国目指したいというような競技志向になっていくこともあるかもしれませんが、そちらのグラフをご覧いただくと分かる通り、活動そのものを楽しみたい。友達と一緒にその活動を十分味わいたいのだというレク志向。こういった子どもたちがたくさんいるということも分かってきました。子どもたちが選んでいくときに、こういう活動を選んでいく。または立ち上げていただくときに、こういった点にもふまえて検討していただくというところが必要になってくるのかなと思っています。

新潟市の中学生のための地域クラブ活動を作っていく際の指導者や実施主体の例として、このような方向を市として考えているところです。まず一つは、既存の団体または新設される団体。そういった団体

が中学生を受け入れてくれる体制を作っていただけるかどうか。または作れるので、どのようにしたらいいか教えてほしいというニーズが高まってきているところです。また右側の部分です。教職員がかかわって実施主体を新設するケースも、多分に考えられます。教員が兼職兼業の願いを出して、学校教育以外の部分で校長の許可を得たうえで携わっていくというようなケースも考えられるのかと思っています。

現在、放課後の活動は、主に部活ということになっておりますが、今後、部活動由来でスライドしてきた自校の子どもたちが活動する地域クラブ活動というものも、学校では並行して進んでいくと考えています。そういった団体が平日の 5 時、7 時の枠だったり、休日の枠を使えるようにしていく。そしてさらに子どもたちの活動を埋めた後、あいているところを活動場所がない一般の団体に向けてオープンにできるようにしていきたいと考えています。

また、立ち上げにつきましても、この後、議会を通ったうえで最終決定となるのですが、一定の条件を満たした団体に対しては、何らかの補助を出せるように準備を進めているところです。団体はないのだけれども、指導者としてのお手伝いならできそうだと教員団体からのアンケートでお答えいただいているケースも今、いくつか上がってきております。私たちの手持ちになります。指導者リストも作成していく予定で考えています。

ここまですぐとらえてみますと、部活動で行っていた活動が、これから大きく変わってくるというようなとらえ方で検討、準備を進めているところです。先ほども触れましたが、部活動との違いを明確にして、地域のクラブ活動とはこういうものだということ分かるように、私たちも周知を図っていきたいと思っています。先ほどもありました、団体リストというものです。先日の、新聞にも出ておりましたが、地域クラブ活動推進室を市で立ち上げて、こういったコーディネート作業を行っていけるように準備を進めていきたいと思っています。新潟市は地域と学校と行政、それぞれの持っている得意分野を活かして、子どもたちを育てていく環境を作っていきたいとも考えています。持続可能で多様な環境の整備、そして子どもたちにとっての多様な体験機会を確保していくという部分を目指しながら進めてまいりたいと思います。

雑ぱくなご説明になったかと思います。お許してください。今後ともよろしく願いいたします。

司 会
(前田会長)

高見さん、どうも大変ありがとうございました。

それでは、今の報告について、ご意見やご質問がありましたらお願いいたします。

自治協委員
(佐藤(茂)
委 員)

ありがとうございます。確認までに教えていただきたいのですが、令和 8 年度を目標に、進めていかれるということで伺いました。厚生労働省からの指導のもとということでもお話しありましたが、例えば、新潟市以外のほかの市町村、あるいはほかの都道府県も同じタイミング、同じ時期にこの施策を進めているという理解で間違いなかったかどうかということが一つと、もう一点は、そのことによって、新潟市の大会もそうですけれども、例えば、各競技とか、吹奏楽部などもありますけれども、県大会、全国大会、こういった競技大会への向き合い方というのは、どのような想定をされていらっしゃるか。今まででしたら学校単位で参加して競い合うということではありましたが、地域クラブということであれば、同じ土俵に立って、上を目指したい子に対しては、今までどおりの上達を目指しているという環境を整えるという理解で間違いなかったでしょうか。教えてください。

学校支援課
指導主事

ありがとうございます。まず他都市の状況です。ほかの都道府県も市町村も、県内でもそうですが、今、同じように地域クラブをどのように作っていくかというところの議論が進んでおります。休日をまず先行させるというところもありますし、平日も含めてというところにかじを切ったのは、新潟市が早かったのですが、ほかの市町村からも平日はどのようにというような問い合わせがきています。その作り方も、やはり地域の実情によってさまざまです、比較的大きくない都市であれば、拠点校というのでしょうか。種目ごとの拠点校を、ここはこの種目、ここはこの種目、バスを回すなどというところも、中にはあります。また、ほかの都市では、種目によって分けているところもありまして、野球は市を二つに分けて、A地区、B地区、それぞれに拠点校をここに。バスケットは市を三つに分けて、A、B、C、ここに。というように、市のがだいぶ動かしているところもございます。新潟市はと考えたときに、新潟市は広くて、ほかの市の参考例をお聞きするのですが、新潟市では、うちのような規模のやり方はできないと思いますというように言われたのも事実であります。

ただ、どの都市も、令和 8 年、まずはひとつそこを目途に、どのように動かしていくかというところの議論を進めているのは事実です。

二つ目の全国大会に関してなのですが、例えば、スポーツ関係で言えば全中のほうは、日本中体連のほうでさまざま種目ごとに参加基準が変わってきています。種目によっては、ライセンスを持っている指導者であれば可とか、種目によっては、どこのクラブが出てきても良いとしているところもあります。少し先の話になりますが、いわゆる競技者の少ない種目は、すでに全中を行わない方法を検討していると

も聞いています。部活動の地域クラブ化と全中大会とか、並列として考えられるのかどうかというところもありますが、全中もどのように改革していくか考えていると聞いています。

またコンクール関係、吹奏楽関係のほうも半年くらい前のニュースなのですが、そういった団体、学校ではない団体としての参加も徐々に認めていくというようなことを報道で私、耳にしたのですが、今、少しそのような形になってきていると私としては認識しているところではあります。

司 会
(前田会長)
自治協委員
(小熊委員)

時間も押していますけれども、何かもう一問、どうぞ。

教職員の方々の多忙さについては、私もとてもよく理解できます。それから、学校から地域へのスライドがとてもうまくできればいいなということも感じております。実際、うちの息子は光晴中学校でバスケット部だったのですが、1年生のときの先生は、全国大会も行って、とても経験者だったのですが、その先生が異動してから、やはり少し落ちてきて、3年生になったときに、外部のコーチをお願いしたのです。外部のコーチはとてもいいのですが、例えば試合の日に来ていただくために、タクシーの運転手さんだったので、1日分の売り上げ分を保護者で負担するとか、そういうことがありまして、子どもがやりたいことが経費などの負担でできなくなるということも少し危惧しているところではあります。

それから、先ほどの陸上競技場などに通えるという、送っていただけたらとか、近くだとか、そういう子はいいとは思いますが、環境がそうではない子との差が出ないように、ぜひ検討していただければと思います。

学校支援課
指導主事

ありがとうございました。今、モデルケース、テストケースをいくつか走らせる 27 の団体。1年目の団体と2年目の団体でも大きく違うのですが、何が違うかというところ、やはり活動にどうしてもお金がかかるというところの認識でございます。学校の部活動であれば、部費とか、PTA会費等々というような絡みも実はあったのかもしれませんが、やはりそれぞれの団体ごとの活動となっていくと、指導者の方に、ボランティアという方がいらっしゃれば、また話は別でしょうけれども、お金が多少なりかかってくるというところは、現実としてあるのかなと思っています。今、国の委託事業もそうですし、市の補助事業もそうなのですが、そういったところの少しでも団体立ち上げ、そして受益者負担となる部分の軽減につながるということなので、私たちも考えてまいりたいと思っております。

それと環境の整備というところなのですが、やはり足問題というのでしょうかね。そこまで行くにはどうしても難しい部分があるところでは確かな部分なのだろうと思っています。そういったところの課題について、また今後、我々も検討していきたいと、それとなるべくたくさんの方に私たちが声をかけていたところです。これまで学校というパイプしか、私たちにはなかったのですが、今、教員団体ですとか、各区の文化スポーツグループにもお願いしまして、あらゆる限りの方法を使って、子どもたちの受入について検討してもらえないか、団体の立ち上げをバックアップしていきたいなと思っています。区によっての違いというものがもちろん出ないように、差はもちろん生まないようにします。違いは生まれるのかもしれませんが、そういったところは子どもたちの活動が一番かなと思うので、そこは困らないように準備を進めていきたいと思っています。

貴重なご意見、ありがとうございました。

自治協委員
(伊藤委員)

説明ありがとうございました。聞いておりました、疑問だった点などあったのでお聞きしたいのですが、活動費用という言葉が出てきましたけれどもこれは指導するために必要な経費ということであるのか、そこには例えば送迎とか、生徒が活動する場所へ行く交通費等、つまり保護者の負担が増えるのかなと、その辺が活動費用の内訳が明確でなかったもので、どんなものなのかということを知りたいと思いました。

あとスポーツにおいては、例えば、子どもたち、今現在やっている種目が、既存の団体で競技ができるように選べるのかとか、あとはあるところから選んでやりなさいというのか、あとは文部科学省も指導者についても育成まで考えてはいただけないと思うのですが、その辺、既存の人となると、今度、指導者の奪い合いが生まれるのかなという心配、あとは指導者そのもので部活動というか、地域クラブ活動を指導することで、それで生計が成り立つのかではないですが、その謝礼については保護者が負担するのか、保護者の経済的な負担の行方が不明確だったので。

あと今、運動がメインに出ましたが、文化活動については、今現在、例えば、美術とか、音楽、合唱とか、大勢でやるものもあります。書道とか、そんなに大勢いなくてもできるような競技で部活動があると思うのですが、文化活動、文化部については、どのように。同じものを当てはめるのか、いろいろ聞きたいと思いました。

学校支援課
指導主事

ありがとうございました。まず、活動費用という部分です。先ほどのお話とも重なると思うのですが、指導者の方に入っていた

くとなると、その方へ謝礼がかかってくると思っています。送迎がある、なしという辺りについては、それぞれの団体がどのようにお考えになるかという部分は大きいのかと思うのですが、市としてできるお手伝いというものが一体、どのようにあるのかなという辺りは、私たちも検討しているところです。そのほか、費用というところにかかる分は、消耗品ですとか、その活動にかかる準備のお金ですとか、用具といったものについては、今までどおり、その団体がかかる分について、やはりどうしてもかかってくる部分ですので、そういったところについては、それぞれの団体でのお支払いともものになってくると思います。ただ、一概にすべてをそのようにすると、やはり団体もそれならばやりにくいなというようにならないようにするために、今、市の補助のほうを準備しているところで、3月を過ぎますと明確に金額や仕組みについてはお話しできるかと思うのですが、指導者の謝金に充てられるような部分。本当は用具購入ですとか、消耗品ですとか、旅費ですとかというところもまかないたいのですが、さまざまな団体に共通してかかるところの補助となると、やはり指導者への謝金の部分なのかと、考えています。お金のかかる種目や競技や団体活動や、シューズがあれば何とかなるという団体もあるため、共通に、公平に分配できる指導者の謝金というところに見ていたところです。

二つ目ですが、指導者の質というところにあります。やはり学校の教員、学校の先生であれば安心だというのはありますし、そのように言っただけなのは大変ありがたいことです。ただ、学校の先生とはいえ、地域クラブに新しい活動になっていくのであれば、改めてレクチャーとして受けなければいけないものがあると思いますし、私たちとしても、この新潟市の中学生のための地域クラブ活動のリストに載るからには、やはり指導者の方たちには、ある程度の知識を持ってもらいたいなというふうに思っています。リスト掲載の条件としまして、オンデマンド講習を受けていただくとう大きな枠で考えています。内容としましては、コーチング論またはスポーツとはというところから、やはり中学生を対象とした活動の指導に当たるのですよというところは、必ず押さえた内容にしたいと思っています。例えば、バスケットボールやほかの活動ですと、ライセンスを取るための研修もあるかとは思いますが、それはおそらく団体によって異なってくると思います。上を目指すチームや団体であれば、それなりのライセンスや指導者資格が必要になってきますし、レクということになるのであれば、そこまで大きな競技性のあるライセンスを取る必要はないのかと思います。ただ、この点でも、共通して指導者に身につけてほしいことは、中学生の理解、生徒理解の部分。きちんと押さえたうえで、指導者として立ってほしいと、考えているところです。

三つ目の文化部というところですが、現在、国の委託事業がありまして、私たちと一緒にテストケースを走ってくれる団体はありませんかと投げかけているところです。スポーツも同様に投げかけています。その国の事業の数が実は決まっており、そこに漏れたとしても、今ほど言いました市の補助事業があるので、手を挙げていただけたらありがたいというような投げかけをしておりまして、この点については、新潟市の文化政策課と一緒にになって、各活動団体に、その案内をさせてもらっています。美術連盟というか、美術協会というのでしょうか。それとお茶の団体、あとは吹奏楽連盟、もう一つあったのですが、そういった大きな団体にも、投げかけてお願いしているほか、文化会館を使っている団体に向けても案内できるところからぜひお願いしますと。あまりにも締切りが間際過ぎまして、間に合わなければまずは皆さんに周知というか、案内だけしますということで、各団体にまずはお知らせしているのですけれども、そういったところからスポーツの面でも、文化の面でも、広げていきたいと考えています。

自治協委員
(伊藤委員)

ありがとうございました。私、北区郷土博物館でガイドボランティアをしているのですが、やはり美術の企画展のときとか、地域の画家の方の作品を味わうような機会、ガイドする機会があったのですが、今回の取組みでやはり本物、専門家というか、本物に近づくチャンスでもあるので、そういう意味で文化活動、英語とか化学も含めて可能であればいいと思うのですが、よりいろいろな未来の子どもたちにいろいろな本物に触れていただきたいと思いましたので、前向きなとらえ方、また呼びかけてくるのを待って、来たらその団体だけスタートするのではなく、広いそういうビジョンを持って呼びかけられるような事業となることを希望いたします。お願いします。

学校支援課
指導主事

新潟市のホームページに、今、地域クラブ活動のページを作りました。どのように申請するといいいのか、どのようにこの団体リストに記載する方法があるのかというあたりを示していきますので、すみません、今、ちょうどホームページを作っているところですので、チェックしていただければありがたいです。よろしく申し上げます。

司 会
(前田会長)

ありがとうございました。だいぶ時間が押しているものですから、最後に日下さんからお願いします。

自治協委員
(日下委員)

ありがとうございます。手短かに質問が 1 点とお願いが 2 点になります。質問に関しましては、プレゼン資料の中で平日の活動時間がおよそ 17 時という表記と、きっかり 16 時 45 分という揺れがあった

ので、それはなぜかなというのが質問 1 点です。

2 点の願いは、先ほども出ていましたが、移動の手段の確保といったところで、最初のところで学校の規模によって選べる部活が今、違う現状があつてなどというお話から入ったかと思うのですが、移動の手段となったときに受益者負担となると、地域性によってかなり偏りが出るかと思ひまして、多くの中学生に多様な体験をという趣旨からいえば、この移動によって場所の偏りで生じる地域の差ができるだけないといいなという思いがありましたので、発言させていただきました。

あともう一点が、大会参加について全中の大会がなしになったりするかもなどというお話がありましたが、高校入試で特色化選抜などといったところで、中学の部活動の成績が将来に大きく影響するという場合も種目によってはあるのではないかと思うので、8 年に移行するのであれば、今度 4 月に入学する子たちが受検をすると 3 年生の結果がどうなるのかなということが心配になったので、その辺りもご配慮いただけるとありがたいなと思ひました。

学校支援課
指導主事

ご意見のほうは、また私たちのほうで検討してまいりたいと思ひます。時間のほうは、厳密に言うと学校のほとんどが 16 時 45 分に勤務が終わるので、正確にいうと 16 時 45 分と申したのです。切りのいいところで活動を始めるというところで、17 時から 19 時という言い方になっていまして、その辺りも学校によっても違ってくるのかなと思うのです。また、指導者の方が 5 時には来られないというような声も聞かれます。もちろん皆さん、お仕事されているのでそうかなと。ただ、今までの部活動に倣ってやはり 2 時間と見ると、5 時 7 時ということになってくるのですが、やはり今までの部活動とは違う、いろいろな幅広い考え方の中で、5 時半から 7 時まで 1 時間半の練習だったらできる、とか、6 時から今日は 1 時間の練習だよということも想定されるのかなとは思っているところです。時間は、もう一度、確認ですけれども 16 時 45 分が教員の勤務終了時間。大体、17 時くらい、もちろん 16 時 45 分からやってもらっても構わないと思うのですが、ジュニア専用枠はその時間帯、19 時までがおよそ目安ですというようにとらえていただければと思ひます。

司 会
(前田会長)

これでよろしいでしょうか。だいたい 30 分近く時間をオーバーしてしまいましたので、教育委員会の皆さん、大変ありがとうございました。難しい課題の取組みですけれども、ぜひ頑張ってくださいと思ひます。大変、今日はありがとうございました。